

F 3

家庭科教育の国際比較について

図書館情報大. ○ 佐々木敏雄, 大妻女大家政. 大森正司 大竹智恵子
岡田安代 岡本慎子, 東京農大農 加藤みゆき, 大妻高枚 俣啓レヅ子
岐阜大教育 衣野宏子

目的

家庭科は人間生活における基本的問題をとり扱う教科として非常に重要である。また、家庭科教育における分野は、自然科学、人文、社会の各分野にわたり、内容も多岐に渡っている。今回は日本、韓国およびアメリカの家庭科教科書（高枚）を題材に、家政科専攻術分類表（CIGE）を用いて分析し、国際比較を通して日本の家庭科教育の問題点を明らかにする事を目的とした。

方法 日本、韓国、アメリカの家庭科教科書の目次をインデクシングカードに転記し、家政科学専攻術分類表を用いてインデクシングを行った。これらインデックスされた標数を分類集計機用カードにマークし、分類集計機で検索した。検索したデータから要素技術の出現頻度、共出現頻度及び関連度を算出し、解析に資した。入力については、外国文献社製ハスキーⅡ-9を用いた。

結果 ①集計分析の結果、日本においては、被服、食物等の技術的分野を中心に教育が比較的少く行なわれ、韓国、アメリカにおいては、技術的分野よりも家族と家庭、人間と福祉、人間の生き方のようなライフスタイルを中心とした教育が行なわれていた。②共出現頻度についてみると、日本の教科書は、被服、住、食の分野と生活環境用品との組み合わせが、また韓国においては、住、被服分野と生活環境用品との組み合わせ、家庭経営と生物の性との組み合わせが上位を占めていた。③要素技術の関連度についてみると、日本においては、共出現頻度の高いものは関連度も高い傾向を示したが、韓国においては、全体に低い値を示した。